

授業科目名	ハンドリングⅡ		科目コード	2502030		
開講クラス	動物健康管理学科	コース	ペット美容・グルーミングコース	学 年	2年	
担当教員	飯田 慎司					
	実務経験教員（ ☒ 有 ・ 無 ）					
	実務経験内容					
	JKC公認トリマー教士					
	神戸市でトリミングサロン開業					
開講時期	前期・ ☒ 後期・通年・特別講義・その他			授業コマ数	32 時間	
	☒ 必 須 ・ 選 択 ・ 選択必須			単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト1	書 名	ハンドリング マニュアル				
	著 者	森 喜夫、他				
	出版社	社団法人 ジャパンケネルクラブ				
使 用 テキスト2	書 名					
	著 者					
	出版社					
参考図書	全犬種標準書					
授業形態	講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（ ）					
<授業の目的・目標> ハンドリングを学ぶことで、更に犬への理解を深め、「見せる」ことの重要性身に付けることで、それらをトリミングに活かしていく						
<授業の概要・授業方針> 犬の体の構造、ショー用のグルーミングの知識まで幅広く学習することで犬に関する理解を深め、リードワークなどの実践を行う事で犬との「親和」を確立することの大切さを学ぶ。以上のハンドリング学の知識をふまえてトリミングの際に犬を正しく立たせることを身に付ける						
<成績基準・評価基準> 出席率及びグルーミング実習の実技試験の評価基準である「犬の扱い」に犬の正しく立たせる「スタック」を評価基準とし加えて採点を行う。10点満点で8点以上は「優」7点は「良」 6点以下は「可」とする。＊評価基準は別紙①グルーミング系実習評価表とする。 出席率は、100%～95%以上「優」、95%未満～90%「良」、90%未満～80%「可」とする。						
<使用問題集・注意事項>						

<関連科目他>

犬学・グルーミング理論・グルーミング実習

授業科目名		ハンドリングⅡ
2H/ 回	授 業 内 容	備 考
1	グルーミング実習において犬をスタックさせる	
2		
3		
4		
5		
6	↓	
7	ショーハンドリング実技	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	↓	
16	後期まとめ	

ハンドリング評価表

試験時間120分 合格点70点

項 目		試験前チェック 10	道具の使い方 10	作業中の安全性(犬) 20	作業内容 10	仕上がり 40	受験態度 10
共通項目		乾かし忘れ 毛玉、もつれ 毛が伸ばせていない	落下(減点) 道具を両手で持つ 両手に道具を持つ コームでテーブルの毛を払う クリッパー・シザーをテーブルに置く	犬の扱いが荒い 犬から手を離す 落下(失格) 保定が不完全(無理やり) 四肢を高く上げすぎたり、無理な方向に上げている 怪我小(止血可能) 続行 怪我大(処置が必要なもの) 失格 スタックできていない(姿勢)	作業の手順 時間配分 シザーリングがおかしい	バランスが悪い 表面が揃っていない	
後躯	尾つき 後肢 タックアップ アンギュ 尾		クリッパーの使い方 肢クリッパーの使い方 腹クリッパーの使い方			角度がついていない 重すぎる、切りすぎ タックアップの位置(後ろ過ぎない)	
中躯	背線 アンダー ウェスト			スタック(姿勢)がまっすぐかどうか 乳頭を確認しているかどうか		曲がっている 切れていない できていない又は極端か	
前躯	フロント 肩 フロント～アンダー						
頭部・頸部	顔(クラウン) ネック		マズル・イマジナリーライン	シザーの刃先の向き	目線が近すぎる	犬種の形容になっているか 鋭角過ぎる	
バランス	面 バランス					そろっていない アンバランスである	
受験態度 10				挨拶 つめが長い 態度が悪い 目に余る身だしなみ(アクセサリー) テーブルの机上の汚れ(毛の処理) 怪我の未申告			

：試験前にモデル犬のチェックとドライングの状態を確認してください。